

無解答率を下げよ！

1, 2年生は課題テスト、3年生は実力テストが終わりました。夏休みは、納得いく取組ができましたか。また、解答らんを全て埋めることができましたか。

無解答率という言葉があります。無解答率とは、解答らんは何も書かない割合のことです。秋田県は学力が高いことで知られていますが、秋田県はこの無解答率も他の県に比べて、とても低いというデータが出ています。中には答えを出すことをあきらめて、挑戦しない人もいますが、こういう人はなかなか伸びません。授業で問題に取り組むときに、空らんの多い人は、テストのときも空らんが多いものです。

このことから、学習にも積極的な姿勢、「どうにかして答えにたどり着こうする姿勢」が必要であることがわかります。それではなぜ、そういう姿勢は力をつけることにつながるのでしょうか。それは、何も書かないゼロ（無）の状態から学ぶのと、間違いから学ぶのでは身に付き方が違うからです。じっくり考えた間違いから学ぶほうが、頭に残りやすいのです。

2学期は、中間テストや期末テスト等各種テストが行われます。もちろん全部書くつもりで臨まなければなりません。こういう姿勢は、テストのときだけやろうと思ってもできるものではありません。ふだんから「必ず答えを書こう」「どうにかしよう」「ただでは終わらない」という姿勢をつくるのが大事です。そして、それは家庭学習、部活、習い事など生活全てで自分を鍛えていかなければ身に付きません。手を抜いている人が簡単に身に付けるような力ではないのです。「力を付けるには、100万回間違えよ」という言葉もあります。100万回挑戦したら、知らず知らずのうちに、力が付いているのです。

力をつけるには

- 授業中の先生の問いかけには、必ず自分の考えを用意すべし
- 間違いを恐れず、発言すべし
- 話し合い活動では、必ず発言すべし
- 友達の考えをもとに、自分の考えを再度見つめるべし
- 問題文は理解するまで何度も読み返すべし
- ワークシートには、必ず答えを書くべし
- 簡単に模範解答を見ず、答えを出してから、解答すべし
- 間違いから学ぶべし



無から学ぶより間違いから学ぶべし